

計画事業番号	00114	事務事業名	介護予防推進事業	担当部署	保健福祉部健康推進課	電話	1221
--------	-------	-------	----------	------	------------	----	------

【基本情報】

事務区分	■自治事務 □法定受託事務		根拠法令等	介護保険法 北広島市介護予防事業実施要綱			
事務事業開始年度	平成18年度		個別計画等	北広島市高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画			
〃 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	特別会計	補助単独区分	補助	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第 1 章)	支えあい健やかに暮らせるまち
	(第 5 節)	高齢者福祉・介護の充実
	(施策 2)	介護予防と自立の支援
2 対象	おおむね65歳以上の高齢者	
3 目的と内容	要介護状態防止のため、高齢者支援センター等による出前講座、訪問活動などにより、予防啓発を実施するとともに、高齢者の健康維持・増進を図るため、生活習慣病等の講演会、認知症予防のための脳の健康教室などを開催する。また、65歳以上の男性を対象に、家事や地域での交流などで自立した生活が送れるよう生活講座を実施する。平成29年度からの介護予防日常生活支援総合事業の実施にあたり、二次予防事業を終了し、一部当該事業へ移行する。	
4 実施内容(手段)	2 8 年度 まで	介護認定を受けていない高齢者を対象に基本チェックリストの作成 健康増進講演会:生活習慣病予防や介護予防に関するテーマを開催(年2回) 脳の健康教室:1講座(1回30分、全10回) 定員20名 生活講座:おおむね65歳以上の男性(定員15名)を対象に調理実習など家事全般の講話や実技などを行う 高齢者出前健康講座:認知症予防、転倒防止等の講義や実技を行う 健康運動教室:10回1コースを5会場で実施
	2 9 年度	健康増進講演会:生活習慣病予防や介護予防に関するテーマを開催(年1回) 脳の健康教室:1講座(1回30分、全10回) 定員20名 生活講座:65歳以上の男性を対象に調理実習などを行う。3回1コースを2会場で実施 高齢者出前健康講座:認知症予防、転倒防止等の講義や実技を行う 健康運動教室:10回1コースを5会場で実施 水中運動教室:12回1コースを年3コース実施

【事業の計画・実績】

平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画	計画
①要介護状態防止の啓発	①基本チェックリスト実施数	健康増進講演会の開催	健康増進講演会の開催	健康増進講演会の開催	健康増進講演会の開催	健康増進講演会の開催	健康増進講演会の開催
②講演会の開催	140人	脳の健康教室の開催	脳の健康教室の開催	脳の健康教室の開催	脳の健康教室の開催	脳の健康教室の開催	脳の健康教室の開催
③脳の健康教室の開催	②2回 152人	出前講座の開催	出前講座の開催	出前講座の開催	出前講座の開催	出前講座の開催	出前講座の開催
④生活講座の実施	③10回 延159人	管理栄養士による指導、	管理栄養士による指導、	管理栄養士による指導、	管理栄養士による指導、	管理栄養士による指導、	管理栄養士による指導、
⑤出前講座の開催	④5回 延49人	生活講座の実施	生活講座の実施	生活講座の実施	生活講座の実施	生活講座の実施	生活講座の実施
⑥健康運動教室の実施	⑤20回 463人	訪問指導の実施	訪問指導の実施	訪問指導の実施	訪問指導の実施	訪問指導の実施	訪問指導の実施
	⑥4コース 延408人	健康運動教室の実施	健康運動教室の実施	健康運動教室の実施	健康運動教室の実施	健康運動教室の実施	健康運動教室の実施
		水中運動教室の実施	水中運動教室の実施	水中運動教室の実施	水中運動教室の実施	水中運動教室の実施	水中運動教室の実施

【評価結果・評価コメント】

総合判定		平成30年度に向けた具体的な方向性		評価区分
前年度 2次評価	現状継続	現状継続とする。		「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統合」 「休止・廃止」 「終了」
1次評価	現状継続	現状継続とする。		
2次評価	現状継続	現状継続とする。		

【事業費の推移】

(単位:千円)

			平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			20,669		30,203		30,473		30,473	
事業額	直接事業費	国支出金	5,152		7,448		7,618		7,618	
		道支出金	2,576		3,723		3,809		3,809	
		地方債	0		0		0		0	
		その他特財	8,408		12,477		12,342		12,342	
		一般財源	4,533		6,555		6,704		6,704	
		① 合計	20,669		30,203		30,473		30,473	
額	人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	② 人数(年間)	1.00	0.00	1.00	0.00	1.00	0.00	1.00	0.00
		③ 1人当り年間平均人件費	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500
		④ =②×③	8,400	0	8,400	0	8,400	0	8,400	0
		総事業費①+④	29,069		38,603		38,873		38,873	

【評価指標】

指標名			単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
活動指標	①一次予防事業対象者数(概数) (高齢者人口-要介護認定者数)	目標値	人	14000	14500	-	-
		実績値		14000			
	②開催回数(延)	目標値	回	100	100	-	-
		実績値		77			
③参加人数(延)	目標値	人	1800	1800	-	-	
	実績値		1371				
④事業参加ボランティア(実)	目標値	人	30	30	-	-	
	実績値		17				
成果指標	①	目標値					
	【指標の定義(算式等)】	実績値					
	②	目標値					
【指標の定義(算式等)】	実績値						
③	目標値						
【指標の定義(算式等)】	実績値						

【評価項目】

チェック項目		評点	コメント
妥当性	・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか? ・上位の施策への貢献度は大きいですか? ・特定の団体の利益に偏っていませんか? 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	高齢になっても介護を必要とせず、自立した生活を送ることが、地域福祉の充実と地域の活性化につながっている。
達成度	・計画どおりに成果があがっていますか? 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	参加者の多くが事業参加後の心身状況が維持向上していること、事業終了後の自主サークル化や、社会資源や地域活動の紹介で継続性が図られており、成果が上がっている。
成果向上	・成果が現状よりも向上する可能性がありますか? 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	3	事業内容に適したスタッフ、回数で実施しており、参加前後の状況について評価も適切に行われ、参加者の満足度も高い状況となっている。
経済性	・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか? 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	2	教材費や材料費分の受益者負担を設けており適正である。民間事業者等で行われている類似の事業とのすみ分けについて検討の余地がある。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	<input checked="" type="checkbox"/> 法律の義務付けあり <input type="checkbox"/> 法律の義務付けなし
------------------------	--

【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	<input checked="" type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 <input type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。
-----------------------------	--